



はぐみ~hug me~



暦の上では春ですが、まだまだ寒い日が続いています。寒さに負けず戸外で身体をたくさん動かして元気に過ごしていきましょう。

寒さで暖房器具や加湿器を使ったり温かい飲み物などが手放せないこの時期に起こりやすいのがやけどです。今月号はやけどの分類や対処方法についてご紹介していきます。

分類	臨床症状
I度熱傷	赤くなり、痛みを感じる。数日で治り傷跡が残らない。
浅達性II度熱傷	赤くなり、水疱が出来痛みを感じる。水疱は圧迫で発赤が消失する。
深達性II度熱傷	赤くなったり、紫色から白くなり、水疱が出来痛みを感じない。 水疱は圧迫しても発赤が消えない。
III度熱傷	黒色、褐色または白色。水疱は出来ず痛みを感じない。

やけどの応急処置・治療について…

火傷をした場合は患部をすぐに流水で冷やし痛みを和らげ火傷が深くなるのを防ぎましょう。部位や範囲にもよりますが5分～30分を目安に冷やすといいのですが小児や高齢者については広範囲を長時間冷やすと低体温になる恐れがあるので注意しましょう。火傷した部位の衣服などは脱がさずに冷やしましょう。

火傷をした場合深さや重症度は自己判断せずに受診して適切な治療・処方をうけましょう。誤った処置をしてしまうと重症化したり後遺症が残ることなどにつながります。

《利用登録受付中》

ご利用には、**事前の登録が必要**です！

『子どもが急な発熱、でも仕事は休めない…』

急な利用に備え、事前に登録して頂くことをお勧めします。

※登録には電話予約をしてから来てください。

※必要書類は昭島市のホームページ、または昭島市役所にごさいます。



月～金曜日 10:00～18:00 (祝日、夏期休暇、年末年始を除く)

☎ 042-519-7868 (担当: 澤田)

低温やけどについて…

皮膚の表面で起こる通常のやけどとは違い皮膚の奥でゆっくり進行していくため分かりづらく治りにくいです。

また、皮下組織が壊れしまうと重症化や感染症にもかかりやすくなり手術が必要になる場合もあるので十分に注意が必要です。